



『夢あふれる 未来のまち 平戸』

一般会計当初予算

の実現を目指して

249億8,800万円

対前年度比
3.1%増

市民1人当たりの予算額にすると84万6,793円 (対前年度比 4万4,669円の増)

総務費 15万7,459円 <small>(対前年度3,780円の増)</small> <small>地域振興やふるさと納税返礼品など</small>	民生費 23万6,129円 <small>(対前年度1万194円の増)</small> <small>高齢者や児童の福祉など</small>	衛生費 9万4,597円 <small>(対前年度4,942円の増)</small> <small>ごみ・し尿処理や病気予防など</small>	農林水産業費 6万39円 <small>(対前年度6,688円の増)</small> <small>農林水産業の振興</small>	商工費 3万6,448円 <small>(対前年度1万413円の増)</small> <small>商工、観光の振興</small>
土木費 5万8,316円 <small>(対前年度1万5,758円の増)</small> <small>道路、住宅の整備など</small>	消防費 3万311円 <small>(対前年度8,039円の減)</small> <small>消防、防災対策など</small>	教育費 6万2,259円 <small>(対前年度3,242円の減)</small> <small>学校や図書館、文化振興など</small>	公債費 10万1,520円 <small>(対前年度8,024円の増)</small> <small>借入金の返済</small>	その他 9,715円 <small>(対前年度3,849円の減)</small> <small>議会運営、災害復旧など</small>

※人口29,509人(令和4年4月1日現在)で計算

特別会計 98億3,064万円 (対前年度比4.1%減)

国民健康保険や農業集落排水事業など事業目的を限定し、保険料や使用料など、特定の収入を特定の支出に充てるため、一般会計と区別した会計です。

会計名	予算額	対前年度比
国民健康保険	47億2,127万円	△8.0%
後期高齢者医療	4億9,185万円	4.4%
介護保険	45億8,334万円	△0.5%
農業集落排水事業	1,317万円	3.0%
宅地開発事業	445万円	△34.7%
あづち大島いさりびの里事業	1,135万円	△23.0%
駐車場事業	523万円	0.4%

企業会計 51億3,158万円 (対前年度比7.6%増)

地方公共団体の行う事業のうち、民間企業のようにその事業の収益で経費を賄って事業経営を行う会計です。

会計名	予算額	対前年度比
水道事業	20億6,203万円	8.7%
病院事業	27億5,187万円	5.5%
交通船事業	3億1,769万円	19.6%

※各会計の金額は単位未満を四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合があります。

当初予算額の推移(百万円)



今年度は新型コロナウイルス感染症に係る感染予防対策や地域経済の活性化に向けた事業の拡充などにより、昨年度と比較すると7億4,700万円増加し、歳入歳出総額249億8,800万円となっています。

新型コロナウイルス感染症が本市経済に与える影響など将来の見通しがつきにくい状況ですが、今後も健全な財政運営に取り組んでいきます。

停滞した経済活動の活性化のため、より効果的な事業予算へ配分

令和4年度当初予算は、国の経済対策と歩調を合わせ、コロナ禍で停滞した経済活動の活性化を図るため、新型コロナウイルス感染症対策に対する国の臨時交付金を活用し、より効果的な事業予算への配分を行いました。今回は、その中でも主要な事業について紹介します。

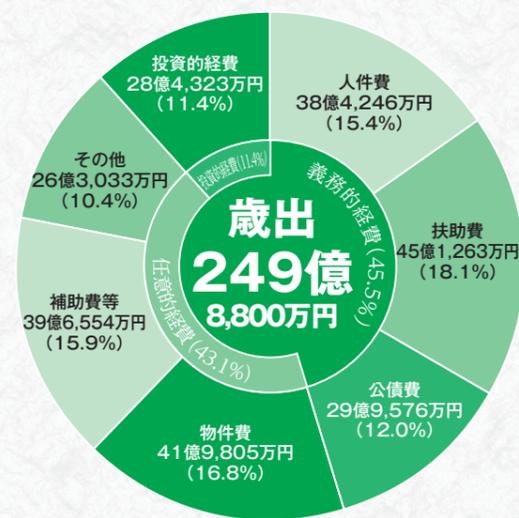
歳入について

市税や普通交付税については、昨年度予算において、コロナ禍における経済への影響や人口減少などを考慮して、減少を見込んでいましたが、当初の見込みほど影響が大きくなかったことから、昨年度の実績に応じた額を見込みました。また、国庫支出金については、国の臨時交付金やコロナワクチン接種費用などによる増額を見込んでいます。

歳出について

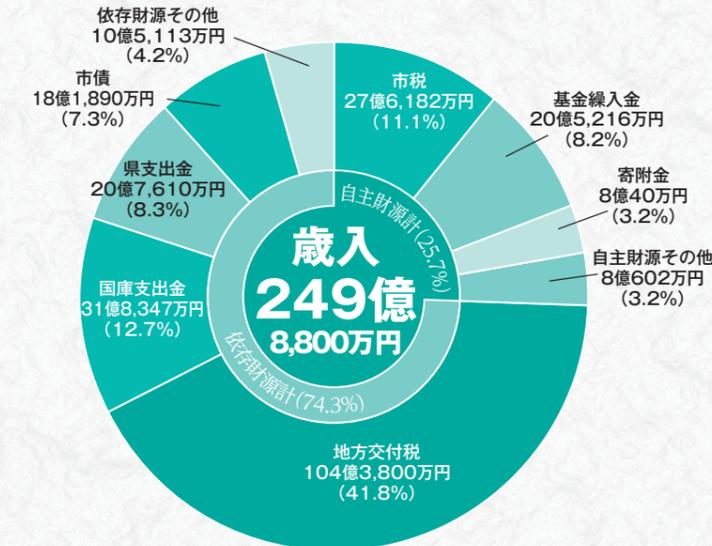
歳入全体をみると、市税などの自主財源が歳入予算に占める割合は25.7%となっており、依然として地方交付税などに大きく依存した財政構造となっています。新型コロナウイルス感染症対策として、小中学校のオンライン学習環境の整備や誘客対策として市内宿泊施設を対象とした特割宿泊キャンペーンの実施など国の臨時交付金を活用した事業を計上しています。また、企業誘致対策として、工場の新設などにより雇用を拡大した企業に対する支援や新たな工業団地整備への着手などに取り組んでいます。その結果、対前年度比で補助費等が15.4%、物件費が5.8%とそれぞれ増加しており、予算増額の要因となっています。

歳出の状況(性質別)



- 義務的経費** 市が支出することが制度的に義務づけられている経費(113億5,085万円)
- 任意の経費** 市が任意に支出できる経費(107億9,392万円)
- 投資的経費** 道路や施設など、支出の効果が将来に残るものに支出される経費(28億4,323万円)

歳入の状況



- 自主財源** 自主的に調達できる財源(64億2,040万円)
- 依存財源** 国または県などから交付される収入(185億6,760万円)

新型コロナウイルス感染症対策事業

コロナ禍で停滞した経済活動の活性化と安心して生活できる環境整備のための事業を実施します。



特割宿泊キャンペーン事業 1億4,210万円

市内宿泊施設を利用する宿泊客を対象とした、宿泊費用の割引キャンペーンを実施します。



避難所資機材整備事業 1,739万円

災害発生時などにおける避難所での新型コロナウイルス感染症感染予防対策に必要な資機材を整備します。



高齢者スマートフォン購入支援事業 1,170万円

非接触型決済の利用促進を図るため、初めてスマートフォンを購入する65歳以上の市民に対し、支援を行います。



漁協経営支援事業 1,300万円

コロナの影響による魚価安などにより売上が減少している市内漁協に対し、共同利用施設の維持管理費用の一部を支援します。

その他の主要事業

その他、今年度実施する事業の中から主要なものをご紹介します。

企業立地奨励事業 2億1,110万円

市内に工場などを新設・増設し、雇用を拡大した企業に対して、企業立地奨励条例に基づき、奨励金を交付します。



園芸用リースハウス整備事業 1億7,462万円

農業協同組合が新規就農者の農業所得を確保するために行うリースハウスの整備に対する支援を行います。



観光案内機能強化事業 1,379万円

観光案内サービスの向上を図るため、観光案内所の改修を行います。



CO2排出ゼロ都市推進事業 912万円

資源物回収施設整備やEV車、太陽光発電設備などの導入に対する支援を行います。



『ずっと住みたいまち』の創造に向かって

総合戦略では、「雇用の促進」「産業の振興」「子育て支援」「定住・移住の促進」の4つの基本目標を設定し、令和4年度はさらに予算の重点化を図りました。ここでは、第2期平戸市総合戦略に基づき、今年度実施する多くの事業の中から主要な事業を紹介します。

雇用の促進 — しごとをふやすプロジェクト —



▲令和3年度事業を活用した(有)森酒造場

中小企業等設備投資関連支援事業……………2,800万円

市内中小企業者などの経営力の強化や事業拡充に資する設備投資などに対する支援を行います。

自社PR動画作成支援事業……………180万円

地元企業が就職促進のため自社の魅力や強みをアピールするPR動画作成に対し支援を行います。

産業の振興 — しごとをのばすプロジェクト —



▲令和3年度に整備された牛舎

平戸式もうかる農業実現支援事業……………7,882万円

新規就農者の確保・育成対策や肉用牛の生産強化に対する支援を行います。

持続可能な新水産業創造事業……………2,330万円

漁業者の所得向上のために必要な漁船用機器の整備などに対する支援を行います。

平戸産品販路開拓商社構築事業……………1,200万円

地域の産品・サービスの商品開発や販路を開拓するための地域商社を構築します。

子育て支援 — ひとをそだてるプロジェクト —



▲学校でのICT機器を使った授業風景

地域子育て支援拠点事業……………2,298万円

乳児や児童およびその保護者が互いに交流できる場所(ひろば)を開設し、子育て支援を実施します。

ICT教育環境整備事業……………1,896万円

市内小中学校において、平戸市ICT教育ビジョンに基づきICT機器を整備します。

定住・移住の促進 — まちをつくるプロジェクト —



▲田平町に移住した宮川さんと友人の皆さん

コミュニティ推進事業……………1億7,948万円

小学校単位を基本としたまちづくり運営協議会に交付金を交付し、地域住民主体のまちづくりを推進します。

移住定住環境整備事業……………4,644万円

移住者や定住者の新規住宅取得などに対する補助や移住コーディネーターによる相談支援、仮暮らし体験住宅の提供を行い、移住定住を推進します。